

様々な植生の保全・復元・再生 に向けた研究：植生学・保全生態学

教員名：石田弘明

連絡先メールアドレス：ishida<atmark>hitohaku.jp

◎ どのような研究をしていて、どんなことに役立つのか？

2007年に刊行された環境省版レッドリストでは1690種の野生植物が絶滅危惧種に指定されています。日本に自生する野生植物の総種数は約7000種ですから、このうちの約24%の種が絶滅に瀕していることとなります。私は、このような問題の解決を図るために、日本の代表的な植生で、かつ生物多様性の減少が危惧されている照葉樹林、ブナ林、里山林、湿原、二次草原を主な研究対象とし、その生物多様性に関する調査を全国各地で進めています。そして、これらの調査結果をもとに生物多様性を保全・復元・再生するための具体的な方法や指針を考案し、その成果を学術論文などとして積極的に公表すると共に、シンクタンク活動や普及教育活動などを通して研究成果の普及・活用に努めています。



小笠原諸島の照葉樹林



兵庫県北部のブナ林

◎ 主な研究業績

- 1) Ishida, H., Hattori, T. & Takeda, Y. (2005) Comparison of species composition and richness between primary and secondary lucidophyllous forests in two altitudinal zones of Tsushima Island, Japan. *Forest Ecology and Management*, 213: 273-287.
- 2) 石田弘明・服部 保・黒田有寿茂・橋本佳延・岩切康二 (2012) 屋久島低地部の照葉二次林に対するヤクシカの影響とその樹林の自然性評価. *植生学会誌*, 29:49-72.

◎ 学生に向けて一言

植物・植生の生態や生物多様性の保全・復元・再生について興味・関心がある方は、ぜひ大学院にご入学ください。一緒に楽しく研究しませんか。